

審査用論文の書き方

本学における審査用論文は、すでに発表されている主論文の内容を中心に、和文で書かれた審査用の単著論文である。審査用論文には関連する参考論文の内容や公表されていない業績も必要であれば記載してよい。 ※2018年12月21日に Thesis（学位審査用論文）は審査用論文へ名称変更します

審査用論文の構成

主要項目を以下の順で記載する。

1. 目次

主要項目や章のページを示す。

2. 緒言

研究の背景について当該分野の一般的なことから始めて、本研究に至った経緯を、分野外の読者にも十分わかるように詳しく記載する。

緒言の最後に本研究の目的を明確に述べる。

3. 方法

各方法について項目別に記載する。

ヒトを対象とする研究、遺伝子組換え実験、病原体等利用実験、再生医療等提供計画（第1種から第3種）、動物実験においては、倫理的配慮に関する記載が必要である。

申請をした学内外の委員会名および承認番号を記載する。

4. 結果

本研究によって明らかになったことを項目別に述べる。

大量のデータは図表等を用いて効率的に提示する。

5. 考察

最初に本研究の目的に沿って得られた最も重要な知見について簡単に述べる。

次にそれに関する考察、評価、問題点、他家による研究成果との関係などを述べる。

その次に副次的内容についての考察を行う。

最後に本研究で得られた知見が広く一般に寄与する可能性や、今後の展望を述べる。

各段落の最初にその段落で取り上げる内容を示す文を記すことが望ましい。

6. 要約

研究全体のまとめ。分量は1ページ以内（800字程度）とする。

7. 文献

本文に引用した順に記載する。著者、題などの記載順はとくに指定しないが、原則として東京慈恵会医科大学雑誌の規定に準ずる。

最後に学位申請にあたって提出した主論文と参考論文を記載する。

8. 謝辞

個人・団体への謝辞、研究費の由来を必要に応じて記載する。

構成にあたって、研究内容が分割できる場合（例えば臨床成績と実験成績、視点の異なる研究など）は「章」をたて、各章ごとに方法、結果、考察を記載してもよい。
この場合は全体の「考察」の章をたてるのが望ましい。

審査用論文の体裁

1. 審査用論文はA4用紙を用い、1ページ30行以内で両面印刷、15枚程度で纏め、簡易製本する。
(ホッチキス留めのための提出は不可。レール式クリアホルダーは可。なお、中綴じ製本やテープ製本の必要はございません)
2. 表紙は以下のとおりとする。
3. ページ番号をふる。
4. 単著論文(1人称)の表現を用いる。(例...×我々は→○本研究では)
5. 図にはその下部に番号、タイトル、説明(Legend)を、表にはその上部に番号とタイトルを付け、いずれも本文から参照すること。
6. (2018年度学位申請分より)論文タイトルは、主論文が外国語の場合にはそのタイトルの和訳とすること。

表紙
論文タイトル
慈恵 太郎
東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科医学系専攻博士課程 授業科目：○○学 授業細目：○○学
2018年11月
博士課程修了による学位申請者

表紙
論文タイトル
慈恵 太郎
東京慈恵会医科大学 ○○学講座 (または、総合医科学研究センター ○○研究部)
2018年11月
論文提出による博士の学位申請者

大学院医学研究科 医学系専攻博士課程の授業科目名・授業細目名は次ページの一覧にて確認すること。

申請にあたって、論文目録、論文要旨の他に、提出する学位論文(主論文)、及び審査用論文の電子ファイル(著者氏名をファイル名とする)を学事課に提出すること。

2018年11月14日更新

※2018年12月21日に学位審査用論文(Thesis)は審査用論文に名称変更します

【大学院授業細目・授業細目一覧】

授業科目	授業細目
器官病態・治療学	消化器内科学
	消化器外科学
	循環器内科学
	循環器外科学
	血管外科学
	循環生理学
	腎臓内科学
	呼吸器内科学
	呼吸器・乳腺・内分泌外科
	糖尿病・内分泌内科学
	代謝・栄養内科学
	膠原病内科学
	腫瘍・血液学
	総合内科学
	泌尿・生殖器科学
	悪性腫瘍治療学
	放射線医学
	薬理学
	器官・組織発生学
	高次元医用生体工学
	再生医学
	肝病態制御学
	応用分子医学
	消化器内視鏡診断治療学
分子腫瘍学	
包括がん医学	
成育・運動機能病態・治療学	小児科学
	産婦人科学
	整形外科
	形成外科学
	リハビリテーション医学
	救急医学
	筋生理学
	臨床薬理学
	遺伝子治療学
神経・感覚機能病態・治療学	神経内科学
	脳神経外科学
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	眼科学
	皮膚科学
	精神医学
	細胞・統合神経科学
	神経解剖学
	緩和医療学
	分子行動科学
病態解析・生体防御学	麻酔科学・侵襲防御医学
	生化学・病態医化学
	生化学・分子機能学
	ウイルス学
	細菌学
	熱帯医学・医動物学
	感染・化学療法学
	人体病理学・病理形態学
	法医学
	分子診断・治療学
	腫瘍免疫学
	分子疫学
	臨床検査医学
	社会健康医学
健康科学	
地域医療プライマリケア医学	
ライフスタイル医学	